特集 special issue 「痛み」へのアプローチ

監修:日本大学医学部麻酔科学系麻酔科学分野 教授 小川節郎先生

痛みが起こる理由

なぜ痛みという不快な症状が起こるのでしょうか?それは生きていくうえで必要なものだから起きているのです。痛みが起こることで私達は体に異常や怪我が起きた事を知ることができます。もし痛みが起こらなければ、私達はそれらの危険から回避して自分を守る事が困難になります。痛みは体を守るメッセージともいえます。

痛みの定義

国際疼痛学会では「痛み」を「実際に組織損傷が起こったか、あるいは組織損傷の可能性のあるとき、またはそのような損傷を表す言葉によって述べられる不快な感覚と情動体験」と定義しています。痛みはあくまで主観的な感覚であるため、他人との間でその感覚を共有化しようとすると、困難が伴います。このことが痛み治療を難しくする原因の1つともいえます。

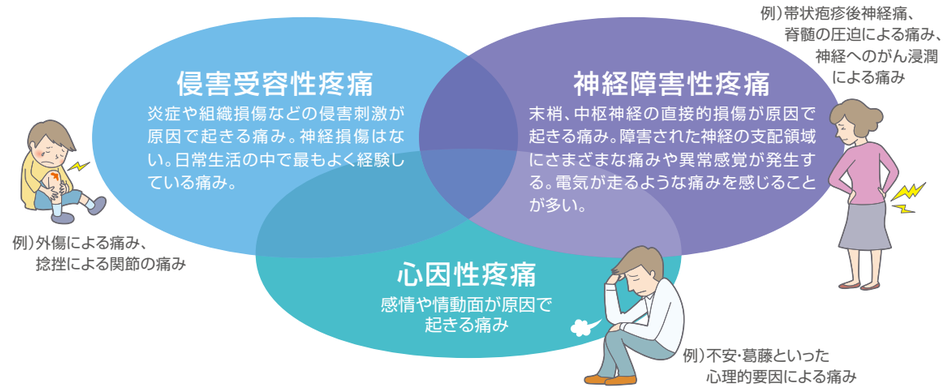
まずは的確な診断を行い、その診断をもとに治療計画を立て、より早く治療に取り組んでいく事が痛みを含めた症状の緩和はもちろん、患者さまのQOLの向上につながっていきます。

痛みの分類

痛みの発生原因で分類すると、「侵害受容性疼痛」、「神経障害性疼痛」、「心因性疼痛」の3つに分類されます。これらは臨床的にも厳密に区別する事が難しく、重複して発生することも多いようです(図参照)。

一方、痛みの持続性で分類すると、「急性疼痛」(炎症や組織損傷などにより瞬間的に誘発され、短期間継続する痛み)と、「慢性疼痛」(初期の痛みの原因が治癒した後に残り、長期間継続する痛み)に分けられます。

このように一言で「痛み」といっても原因や状態により色々な分け方をすることができます。



久光製薬としての痛みへのアプローチ

このような痛みの治療には、その原因にアプローチする「原因療法」とその時の症状を軽減する「対症療法」があります(図参照)。

それぞれの代表をあげると、原因療法としては手術療法、対症療法としてはNSAIDs*やオピオイド*といった鎮痛効果のある薬剤を使用した治療法になります。

久光製薬の製品群は、「対症療法」として用いる薬剤ですが、セルフメディケーション用医薬品としてサロンパス®シリーズやフェイタス®シリーズ、医療用医薬品としてモーラス®パップ・モーラステープ®(成分:ケトプロフェン)、2011年に新発売となった慢性疼痛(変形性関節症、腰痛症)に適応をもつノルスパンテープ(成分:ブプレノルフィン)、さらに医療用医薬品の中でもがん疼痛に適応をもつフェントス®テープ(成分:フェンタニルクエン酸塩)があります。様々な痛みに対し対応できるように、多くのラインナップが開発されています。より多くの患者さんの疼痛緩和により、QOL改善の一助となればと願っています。

*NSAIDs……Nonsteroidal Anti-inflammatory Drugs 非ステロイド性抗炎症薬。
*ステロイド…ステロイド骨格と呼ばれる構造を持った化合物の総称。副腎皮質という臓器から産生される物質(合成物質等を含む)。
*オピオイド…モルヒネ様作用を持つもの。オピオイド受容体に結合する薬物。